

語り継ぐ土砂災害

災害体験の
生の声
をお聴きください

平成11年(1999) 6月29日

局所的な集中豪雨により発生した土砂災害 (広島市佐伯区五日市町上河内地区)

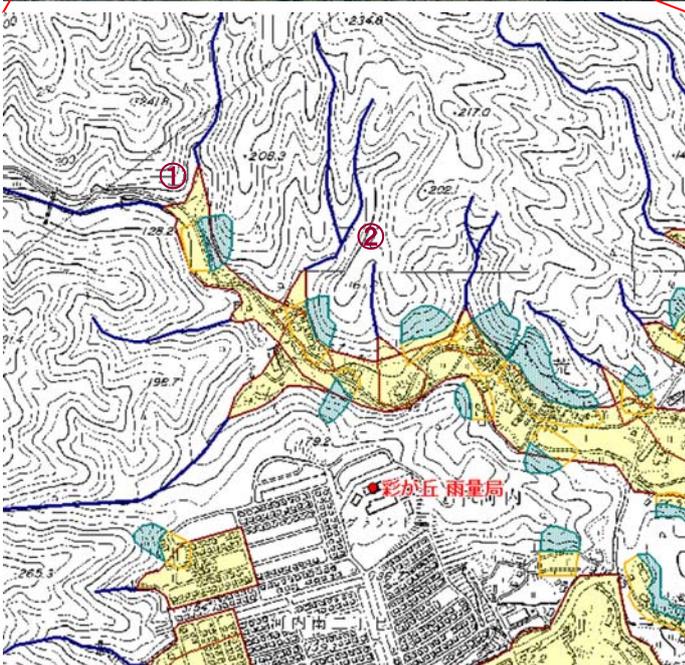
局所的に発生した集中豪雨により尊い人命や財産だけでなく、日々の暮らしまで変えることを余儀なくされてしまった土砂災害。災害史に残るものとなったこの土砂災害は、今でも人々の生活に影響をおとしているのです。



<平日の午後に発生した土砂災害>

<平成11年6月29日の状況:降雨記録より>

広島市周辺では梅雨前線の影響も少なく、27日からはほぼ2日間無降水の状態が続いていた。29日の未明から降り出した雨は、午前中はおおむね時間雨量が10mm前後であったが、12時頃から急激に雨脚が強まり、14~17時を中心に時間雨量が50mmを越える豪雨が観測されている。この時間帯に広島市西部の安佐北区、安佐南区、佐伯区を中心に斜面崩壊や土石流が発生し、甚大な被害を生じた。この雨も17時過ぎにはほぼ終了している。



土砂災害危険箇所図【広島県土砂災害マップより】

- ① 荒谷川(I-2-1-9)
- ② 荒谷川支川1号(I-2-1-10)



たまたま休みで家に居た。犬がほえるので外に出たら、前の道が川になっていた。孫を両脇に抱えて走った。犬を放してやれなかったのが…… (中島さん)



家の中は砂だらけ。洗面台まで土砂に埋まった。



凡例

土砂災害危険箇所
被害のおそれがある箇所
危険が甚だしい箇所
被害のおそれがある箇所
被害のおそれがある箇所
被害のおそれがある箇所

濁流がドアを押して開けられない。大きなピアノも何処へ流されたのか跡形もない。水の力は途方もないものだ。(中島さん)

<勤務先から帰宅したら家がない・・・>

たまたま休みで家にいたから、孫も小さかったから、両脇に抱えて安全なところまで走れたんですよ。そこにいたご近所のお婆さんに孫達を預けて家に引き返しましたが、今度は家から出ることが出来ない、濁流がドアを押しているから、開けられないんですよ。さすがに焦りましたね。家の前の道を、濁流が流れて川になっているんですが、岩や材木と同じように、人も流されていく、女こどもしかいない時間帯の惨事ですから、どうしようもないんです。我が身のことで満足に出来ないんですから……。

雨は夕方には上がってますから、それも何事もなかった様な天気になってしまってますから、家を留守にしていた人には何もわかりませんよね。夕方帰ってきて、家の近くにすら行くことができないんですから、「嘘だろう〜」って呆然とするしかなかったですよ。

我が家は幸いにも命に関わることはありませんでしたが、ご近所には不幸なことになってしまいました。つらい記憶ですよ。



濁流が襲い、土砂が堆積した小渓流に惨事の跡は見えない。
【写真右が現在の状況。破線（赤）の辺りまで土砂が堆積した。
（平成18年5月）】

自然の持つ破壊力は想像を絶している。流木や岩で無惨となった現場は、今は穏やかにみえる。
【災害発生時（上）と、現在の同地点付近（平成18年5月）】

<危険は何処にあるかわからない。>

家を建てる時には、目指した地域の環境をよく知っておくことが大事ですね。でも必ず安全と言うわけにはいかないから、雨や、水の流れには気を付けておくことだと実感しました。

夢だったマイホームも無惨なことになった。地形も変わり、同じ場所に家を建てることも、簡単にはできない。今は何も残っていない現場を見るのが哀しいですね。

※本紙に掲載しました災害時の記録写真は中島氏にご提供いただいたものです。
貴重なものをありがとうございました。



最大被災地周辺の現況（平成18年5月）

このお話のポイント

- ・災害は繰り返すが、何時くるかわからない。地域の地形や災害史を知っておこう。
- ・どのような災害が、どのような気象状況で発生するか、この地域の特性は何か、について、知識をもっておこう。
- ・災害が発生しても一人ではなにも出来ない。地域、隣近所との連携が大切。

❖ お問い合わせ先



国土交通省中国地方整備局
太田川河川事務所工務第二課 防災体験談募集係

〒730-0013 広島市中区八丁堀3-30 TEL (082)221-2436 FAX (082)222-2432

URL <http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa>